

KIRIN

KIRIN GROUP SUSTAINABILITY REPORT 2014



会社概要

商号	キリンホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
本社所在地	〒164-0001 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
TEL	03(6837)7000(代表)
代表取締役社長	三宅 占二(みやげ せんじ)
資本金	102,045,793,357円
売上高	2,254,585百万円 (2013年12月期キリンホールディングス連結業績)
従業員数	62人(キリンホールディングス連結従業員数:39,922人) (2013年12月31日現在)

グループ組織図(2013年12月31日時点)

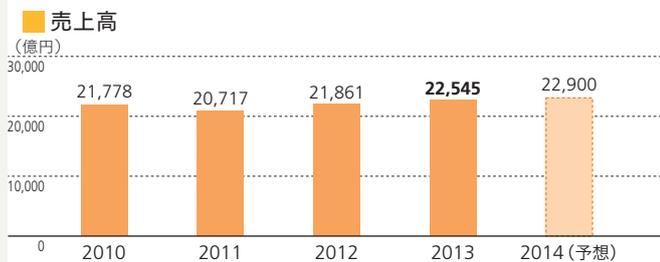


※1 持分法適用会社 ※2 機能分担会社

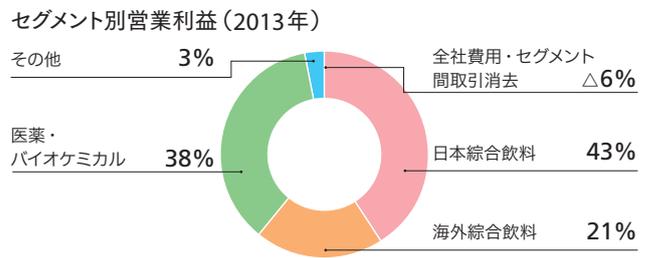
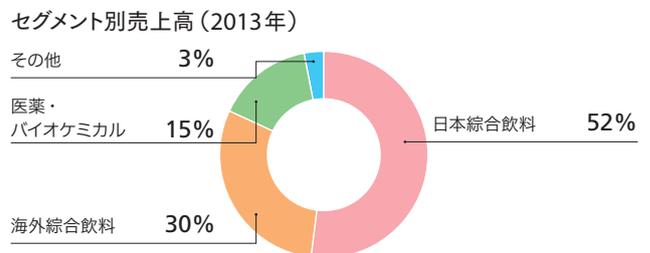
事業展開(主要商品)



連結財務ハイライト



セグメント別データ



編集方針

キリングroupでは、企業理念である「キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、『食と健康』の新たなよるこびを広げていきます」の実現に向けたgroupの活動と今後の方向性を、幅広くステークホルダーの皆さまにお伝えするため、積極的にgroupのCSVに関する情報を発信しています。また、これらを通じて皆さまからgroupの取り組みについてご意見を伺い、今後の改善につなげるきっかけとしたいと考えています。

groupの主な報告としては、下記の3点をご用意しています。なお、group各社個別のCSVの報告については、事業会社の報告書も併せてご覧ください。

サステナビリティレポート2014

PDF版日本語・英語

Webサイトに掲載されている情報から、特にステークホルダーの関心が高く、キリングgroupにとって重要な本年度の取り組みを掲載しています。Webサイトに掲載されている情報へのガイドとしての役割もございます。

※ 英語版は8月末公開予定です。



Web版：日本語・英語

キリングgroupのCSVに関する考え方と、それに則った各分野の取り組みを網羅的・体系的に紹介しています。

※ 英語版は8月末公開予定です。



www.kirinholdings.co.jp/csv/

環境報告書 (PDF)：日本語

環境に関する詳細なデータを、一冊の冊子に出力いただけるよう編集しています。「GRIガイドライン第4.0版」や、環境省「環境報告ガイドライン (2012年版)」を参考に作成しています。

※ 2014年度版は6月末公開予定です。

目次

- 01 会社概要
- 02 編集方針／目次
- 03 トップコミットメント
- 04 長期経営構想とCSV
- 05 キリングgroupが目指すこと
- 07 ■ 人や社会のつながりの強化
- 10 ■ 健康
- 13 ■ 環境
- 15 ■ 食の安全・安心
- 16 ■ 人権・労働
- 17 ■ 公正な事業慣行
- 18 国連グローバル・コンパクト／社外からの主な表彰例

免責事項

当報告書掲載内容のうち、過去または現在の実績に関するもの以外は、現在入手可能な情報から得られた計画・将来の見通し・戦略などであり、経済情勢、市場動向、税制や諸制度の変更などに係るリスクや不確実な要素を含んでいることをご了承いただきたくお願いいたします。

報告対象期間

原則として、2013年1月～12月の実績を記載しています。なお、ライオンの環境データは2012年10月～2013年9月を報告対象期間としています。

報告対象組織

原則として、キリンホールディングスおよび、国内・海外の連結子会社合計236社 (2013年12月現在) を「キリングgroup」と表記しています。可能な場合には、より広い範囲の報告に努めました。またgroup全体の情報を十分に把握できていない場合は、都度その対象組織を明示しています。

トップコミットメント

私たちキリングroupは、長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021 (KV2021)」のもと、モノづくりでお客様のコト（価値作り）に貢献し、人と人との絆を深める存在となること、そしてグローバルに事業展開するそれぞれの地域で社会とともに発展していくことを目指しています。

これらの実現を通じて、お客様の「食と健康」の新しいよこびを次々とお届けできる企業グループであり続けることが、キリングroupが社会に対して果たすべき使命であると考えています。「復興応援 キリン絆プロジェクト」で東日本大震災復興支援に携わる中、私たちは事業を通じて社会課題の解決に取り組むことの意義を改めて学ぶことができました。キリングroupはこれまでも事業を通してCSRを推進してきましたが、昨年度は事業と社会課題とのつながりをしっかり踏まえ、CSV*を経営の中心に据えていくことを決意し、福島県産の梨の果汁を使用した「氷結和梨」の発売で新たな一歩を記すことができました。本年は国内でCSVの成果創出を加速させるとともに、海外においてもキリングgroupならではのテーマでCSVを推進していきます。

私たちは「食と健康」に関わる事業を通じて、私たちにしかできないアプローチで、人とコミュニティの健全な成長に貢献したいと考えています。

本報告書がキリングgroupをご理解いただく一助となれば幸いです。

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長

三宅 占二

* CSV (Creating Shared Value) は、これまでのCSRを一歩進め「社会課題への取り組みによる社会的価値の創造」と「企業の成長」を両立させる経営コンセプトです。



グループ経営理念

キリングgroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよこびを広げていきます。

2021ビジョン

- お客様本位・品質本位に基づく価値作りで、人と人との絆を深める
- 多様な人々が活き活きと働き、地域社会と共に発展し、自然環境を守り育てる企業グループとなる
- 「食と健康」の分野でグローバルな事業展開を行い、それぞれの地域に根ざした自立的な成長を遂げる

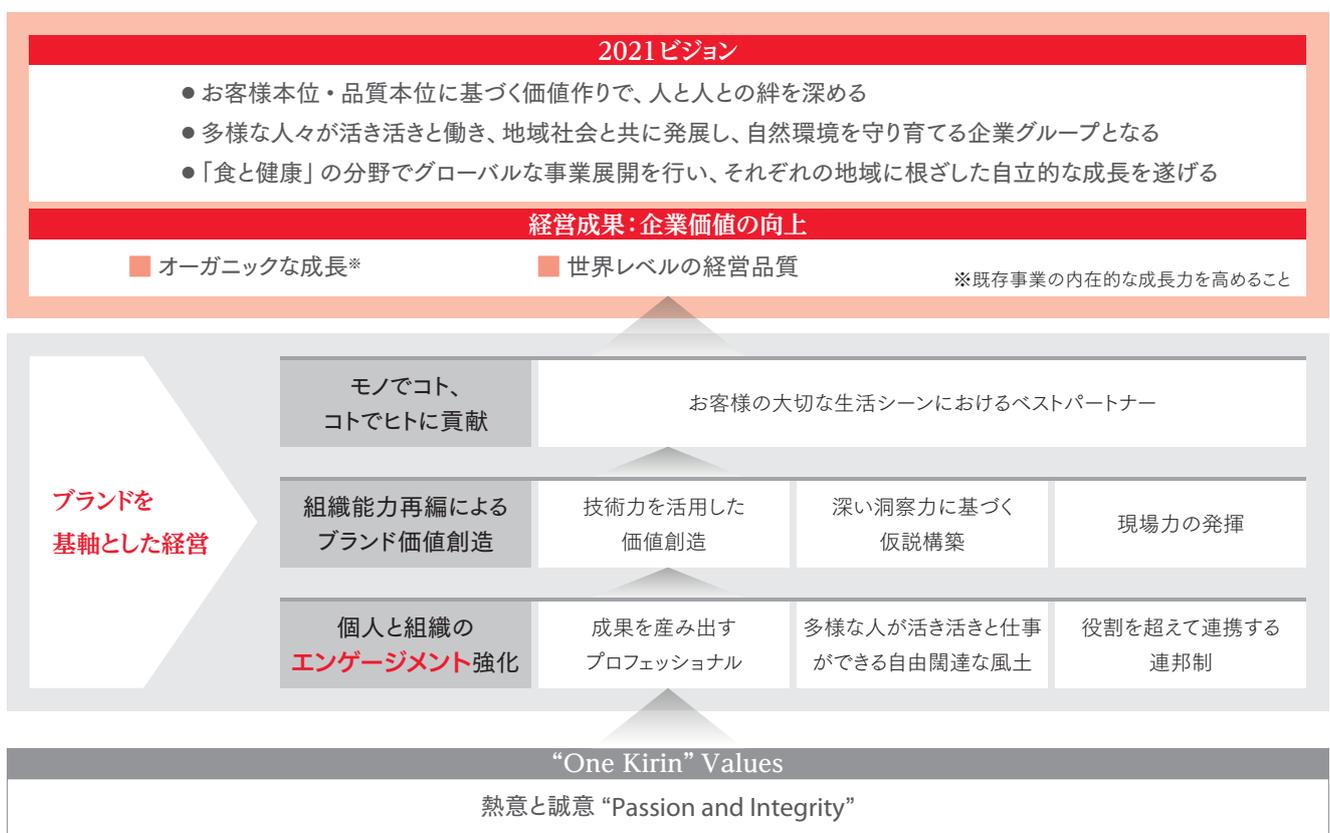
“One Kirin” Values

熱意と誠意 “Passion and Integrity”

「キリン・グループ・ビジョン2021 (KV2021)」

現在、キリングroupでは長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021 (KV2021)」を掲げ、事業を推進しています。KV2021は、2006年に策定した長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2015 (KV2015)」の下でグローバルに拡大した事業展開の状況や経営環境の変化を踏まえ、改めて長期的な視点で“キリングroupの目指す姿”を明確化し、2012年10月に策定しました。

KV2021では、キリングroupの強みであるエンゲージメントを梃子に、多様性を活かしながら、対話と融合を通じてブランド価値を共創していくキリン独自の「ブランドを基軸とした経営」を実践することで、日本を含むグローバル市場においてオーガニックかつ持続的に成長できる企業へと進化していくことを目指していきます。



KV2021の策定にあたっては、2021年にキリングroupがあたりまえの姿をこれまで行動指針としてきた「KIRIN WAY」および「グループ行動宣言」、ステークホルダー、事業領域、さらにはこれまで積極的に展開してきたCSRの取り組みの視点から見直し、3つのビジョンとグループ共通の価値観に整理しました。

1つ目の「お客様本位・品質本位に基づく価値作りで、人と人との絆を深める」では、キリングgroupのDNAである「お客様本位・品質本位」をベースに、商品やサービスの提供をはじめとする事業活動全体を通じて、人と人との絆を深めることに貢献する価値作りを行っていくことを示しています。

2つ目の「多様な人々が生き活きと働き、地域社会と共に発展し、自然環境を守り育てる企業グループとなる」では、グローバルな事業フィールドでキリングgroupの事業に関わる人材が、お互いの

多様性を受け入れ、強みに変えていく企業文化を目指していくことを示しています。同時に、キリングgroupが事業を展開する各地域のコミュニティ、さらには水や原料など自然のめぐみを大切に、持続的な共存・共栄を目指していくことにもコミットしています。

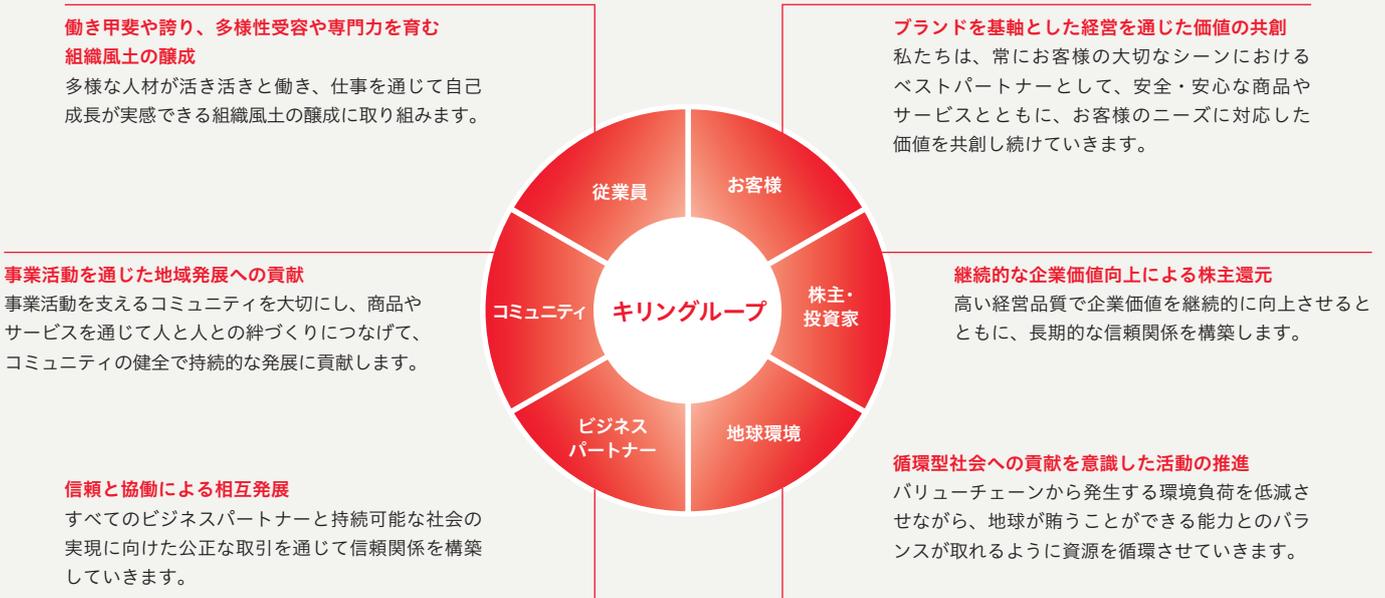
3つ目の「『食と健康』の分野でグローバルな事業展開を行い、それぞれの地域に根ざした自立的な成長を遂げる」では、事業を一層グローバルに広げていくことを念頭に、各国のグループ会社が地域に密着し、それぞれの社会環境に応じた事業活動を通じて自立的に成長していくことを目指すべき姿として示しています。

グループ共通の価値観「One Kirin Values」は、グローバルに広がるキリングgroupの従業員が共有し、事業・地域の垣根を越えて連携することで、ビジョンの実現を目指していくものとして設定しました。

ステークホルダーとの共創

キリングroupは、お客様、従業員、コミュニティ、ビジネスパートナー、地球環境、株主・投資家を、グループ共通のステークホルダーとして設定しています。ステークホルダーとともに6つのテーマに取り組み、

共有価値を創造していくことを目指します。また、日々の事業活動を通じて継続的にステークホルダーとの対話を重視し、社会の要請と期待を把握するように努めていきます。



CSVの推進体制

キリングroupは、CSVに関するPDCA (Plan-Do-Check-Action) のしくみを整備しています。

CSVの取り組みは、事業と密接に関係しています。このため、CSVに関する活動の進捗は、キリングgroup独自のマネジメントのしくみである「KISMAP」*の中で管理されています。コンプライアンスや品質保証といった事業の基盤となるマネジメントシステムについては、継続的に改善を重ね、より高いレベルを目指していきます。

中長期的なCSVの取り組みに関する方針・戦略については、グループCSV委員会において討議を行っています。

各事業会社を通じて行うCSVの取り組みについては、PDCAサイクルを回すために、3階層のマネジメント体制をとっています。

グループCSV委員会と、実際に活動を推進する各事業会社の間、主管部門と呼ぶ、推進活動をリードしモニタリングする部門を設けている点が特徴です。主管部門は、「環境」「食の安全・安心」などのテーマごとに設定されています。グループCSV委員会・主管部門・事業会社の3階層がそれぞれに推進とモニタリングを行うことで、グループとしての一体感を維持しながら、PDCAを推進しています。

キリンホールディングスのCSV推進室は、経営と一体になって事業会社のモニタリングを行い、取り組みの進捗を定期的にフォローしています。

* Kirin Innovative & Strategic Management Action Program(バランススコアカードを活用したキリンのマネジメントのしくみ)

モノづくりを通じたコトづくりで 人とコミュニティの健全な成長と発展に貢献する

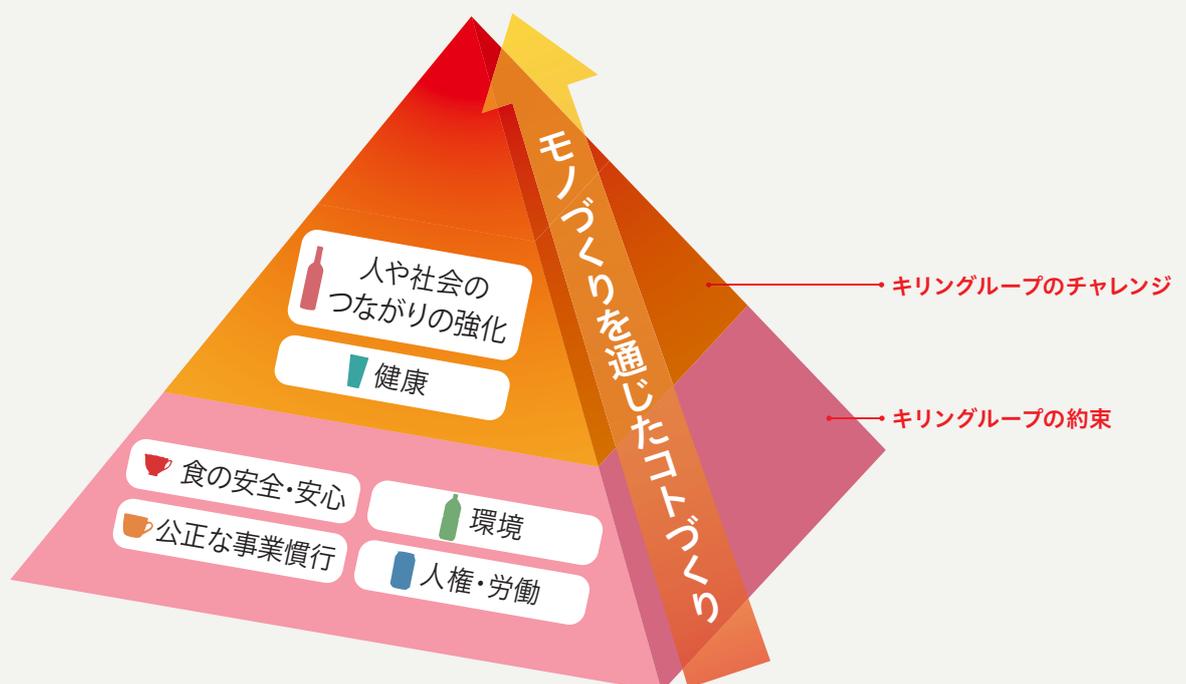
「キリン・グループ・ビジョン2021 (KV2021)」の実践に向けて、キリングroupは6つのテーマでCSVに取り組んでいます。6つのテーマ設定にあたっては、これまでキリングroupが事業を通じてのCSRとしてきた取り組みを見直し、KV2021で目指していること、キリングroupの事業を通じて取り組むべき社会課題、事業リスクと機会、さらにはステークホルダーとの対話、国連グローバル・コンパクトなどの国際規範を踏まえ、決定しました。「公正な事業慣行」「人権・労働」「食の安全・安心」「環境」は、事業の前提であるとともに、社会に対する約束と位置づけています。この基盤の上に、社会に対して価値を提供するためのチャレンジとして、モノづくりを通じたコトづくりで、「健康」と「人や社会のつながりの強化」を目指しています。

生活習慣病の増加は、今や先進国にとどまらず世界的に最も重要な社会課題の一つです。キリングroupでは生活習慣病を「健康」テーマの主要課題と捉え取り組んでいます。酒類を扱うメーカーとして適正飲酒の普及啓発に向けた責任を果たすのはもちろん、毎日の暮らしに健康という価値をプラスする「キリン プラス-アイ」

シリーズの開発や、医薬事業を通じた生活習慣病の治療薬の提供など、世界中の人々の健康と豊かさに貢献できる事業に挑戦しています。

地域社会における人間関係の希薄化や、IT技術によるネットワークの進化・多様化により、つながりのカタチや質は大きく変化しています。そうした中で、失われていくものを補い、新しいつながりを創り、さらに潤していきたい。人と人の絆を深め、コミュニティが成長していくために事業を通じて何ができるのか、私たちは探索します。今までのビールや飲料にはない新しい楽しさがSNSを通じて話題になり、その結果人と人が顔をあわせて、集う機会が生まれ、笑顔があふれるような、新たな価値を持った商品やサービスを提案し続けます。人々が心をつなげて応援できるサッカー日本代表やラグビーニュージーランド代表のサポーター、地域と人の絆を育む東日本大震災やクライストチャーチ地震での被災地支援など、「人や社会のつながりの強化」のためのさまざまな役割をグローバルに担っていきます。

人とコミュニティの健全な成長と発展



人や社会のつながりの強化



目指していること

キリングroupでは、事業を通じて人と人とのつながりを育むことを創業時から大切な理念としてきました。これはキリングroupの経営理念である“「食と健康」の新たなよろこび”を提供していく上で、人と人とのつながりがなくてはならないものだと考えてきたからです。

「キリン・グループ・ビジョン2021(KV2021)」では、「人と人との絆を深める」および「地域社会と共に発展する」ことを、2021年にキリングroupがやりたい姿として明確に掲げています。そこでKV2021実現に向けたCSVの実践では、「人や社会のつながりの強化」を重点テーマとし、以下の2つの側面から取り組みを進めていきます。

地域産業の活性化

キリングroupが持続的に事業を展開していく上では、事業基盤となる地域社会の発展が不可欠です。特に、国内では東日本大震災を機に「復興応援キリン絆プロジェクト」を立ち上げ、取り組んできた復興支援活動が、一歩ずつではありますが地域産業の活性化と地域社会の発展につながっていくことを目の当たりにしています。こうした成果をキリングroup全体の事業に拡大し継続的に積み上げていくためにも、国内に限らず海外を含めた事業展開地域において、飲料・食品事業を営む企業として、食に関わる地域産業の活性化を目指していきます。

人と人との絆づくり

少子高齢化やライフスタイルの変化などにより、人と人とのつながりや地域のつながりが希薄化し、特に日本においては社会的孤立が深刻な社会課題を引き起こしています。キリングgroupが主力事業とする飲料・食品は、人が集まる場で消費されることで、よりそのおいしさやよろこびが広がり、深まるものと考えています。キリングgroupが提供する商品を手にしていただく機会を拡大していくためにも、人が集まる場づくり、人と人とのコミュニケーションのきっかけづくりに貢献する取り組みを推進していきます。

地域産業の活性化

原料調達による農業振興

キリングroupでは、地域産業の活性化を目的に、原料を調達する農家やその地域に対する支援など事業を通じたさまざまな取り組みを推進しています。国内では、メルシャンが長年継続してきた国内契約栽培農家からの原料（ブドウ）調達に加え、2003年には長野県旧丸子町（現：上田市）の遊休農地を活用した椀子（マリコ）ヴィンヤードを開園し、自社栽培事業を始めました。「シャトー・メルシャン マリコ・ヴィンヤード ソーヴィニオン・ブラン」は国産ワインコンクールで3年連続金賞に輝き、品質面でも高い評価を得ています。

また、キリンビールでは岩手県、秋田県、山形県のホップ農業協働組合と契約を結び、国産ホップの持続的な調達を行っています。毎年期間限定で発売している「一番搾りとれたてホップ生ビール」は発売10周年を迎え、長くお客様に支持されています。

海外では、オーストラリアのライオンが酪農家、得意先、販売業者、自社の四者にとってプラスになるようなサプライチェーンの構築を目指しています。酪農家との緊密な関係を維持するとともに、オーストラリアの酪農業界団体や環境団体が運営する支援プログラムへの参画を通じて、持続可能な酪農業の推進を支援しています。



地域の産業支援

キリングroupでは地域の産業支援に取り組んでいます。キリンビールの工場がある兵庫県とは包括連携協定を2014年に締結し、観光振興、食育・地産地消など、幅広い分野において連携し、地域産業の振興に貢献していきます。まずは連携事項の一つである「兵庫ブランド」の強化に向けて、キリンビール神戸工場にて地域のJA兵庫六甲と協働で「ひょうごマルシェ（朝市）」を開催します。マルシェでは地域の特産品をはじめとした農産物や加工品を販売し、兵庫県産品の認知向上を目指すとともに、来場者のキリンビールへの好意度向上につなげていきます。

ブラジルキリンでは、事業拠点のある地域の雇用率向上と従業員の能力向上を目指す“Qualifica”プロジェクトに、2012年よりSENAI（全国工業職業訓練所）と提携して取り組んでいます。2012年はブラジルキリンの工場があるブラジル北東部マラニャオン州カシアス市、2013年はリオデジャネイロ州カシオエイラス・デ・マカク市において実施しました。2013年は30名が本プロジェクトに参加し、参加者自らが選択した技術コースを修了しました。今後も、他地域への水平展開を視野に入れながら継続的にプロジェクトを推進していきます。



人と人の絆づくり

ビールを通じて人と人の絆づくりに貢献

キリングroupの主力事業である飲料・食料は、人が集まる場で消費されることで、よりおいしさやよろこびが広がるものです。キリンビールやライオンではコミュニケーションのきっかけづくりを通じて、キリングroupの商品を手にしていただく機会を拡大していく取り組みを行っています。

キリンビールでは、オンラインコミュニティ「キリンビール カンパイ会議」で参加を募った横浜出身・在住の若年層と地ビールの開発を行うことで、ビールの価値共創を目的とした「はまっこビール」開発プロジェクトを推進しています。本活動を通じて、若者に「横浜の素晴らしさ」と「ビールのおもしろさ」を再認識してもらい、横浜の地域振興とビール文化の復興・革新につなげることを目指しています。

また、ライオンでは2013年にオーストラリアにおけるビール市場のマーケットリーダーとなったことを機に、おいしいビールを人と人の絆を感じながら適切に楽しむことを浸透させる「Vibrant Beer Culture (VBC)」の取り組みを開始しました。従業員や家族、友人の啓発を目的とした「ビールアカデミー」やソーシャルメディアを通じたお客様との対話ツールなどを開設して、取り組みを推進しています。



東日本大震災からの復興支援

キリングroupは、東日本大震災復興支援に継続的に取り組むべく、3年間で約60億円を拠出することを決定し、2011年7月から「復興応援 キリン絆プロジェクト」として、グループ各社が一体となった復興支援活動を進めています。「絆を育む」をテーマに、“地域社会の絆”や“家族の絆”を一層深めていただけるよう「地域食文化・食産業の復興支援」、「子どもの笑顔づくり支援」、「心と体の元気サポート」の3つの幹で一貫した活動を進めています。

東北地域の産業復興支援

食に携わる企業として復興に貢献したいとの思いから、キリングroupの中でもキリンビールが中心となり、“生産から食卓までの支援”をテーマとした農業や水産業に対する支援活動を継続的に実施しています。復興支援に携わる専任担当者を被災地に配置するだけでなく、在京のプロジェクトメンバーも被災地に頻りに足を運び、農業水産業関係者、さらにはNPOや有識者などと対話を重ねることで実情を把握し、ニーズに合った支援に取り組んでいます。

2012年までは、営農再開に必要な農業機械の購入支援や、養殖再開に向けた養殖設備の復旧支援を行いました。2013年からは、生産支援だけでなく、農作物・水産物のブランド育成支援、6次産業化*に向けた販路拡大支援、「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」による将来にわたる担い手・リーダー育成支援などを展開し、2014年も継続してきます。

* 農業・水産業が1次産業に留まらず、それを加工し販売するところまで視野に入れた事業展開により、農業・水産業の活性化につなげる。1次産業（農業・水産業）×2次産業（加工）×3次産業（流通）=6次産業



東北の次世代育成

キリングroupは、被災地の将来の発展を支える子どもたちの学びの機会を大切にしたいとの願いから「子どもの笑顔づくり支援」の一環として、岩手県・宮城県・福島県の地域産業復興の一翼を担う、被災した農業高校および農業科の高校生に対し、奨学金を給付しています。また、理科教室の開催や音楽や卓球を通じた支援を展開しています。

「心と体の元気サポート」では小学生を対象にサッカー教室「JFA・キリン スマイルフィールド」を開催しています。仲間との触れ合いやチームで力を合わせることの大切さを伝え、子どもたちへ笑顔を届けることを目的に展開し、震災後の運動不足や体力低下が懸念される被災地の子どもたちに、運動する機会を提供しています。



TOPICS

事業を通じた復興支援－「氷結 和梨」の発売

キリンビールは、「復興応援 キリン絆プロジェクト」を通じて福島県の農業を応援してきた取り組みの一つとして、2013年に福島県産の和梨の果汁を使用した「氷結 和梨」を新たに発売しました。お客様からよく知られている氷結ブランドとして商品化することで、現在も厳しい状況に置かれている福島を応援するのが目的です。この取り組みは、震災以降、「復興応援 キリン絆プロジェクト」を通じて行ってきた東北の復興支援が商品化という形で事業に直結したCSVのモデル事例です。





目指していること

キリングroupでは、健康を「肉体的・精神的・社会的に健康な状態でいられることであり、自分一人のものではなく、家族や友人、地域や職場、さらには次世代につながるもの」と考えています。そして、「自然と人を見つめるものづくりで、『食と健康』の新たなよこびを広げていきます」という経営理念のもと、社会の変化に応じて多様化する「健康」というテーマに事業を通じて向き合ってきました。

特に近年では、生活習慣病の増加が世界的に深刻化しており、その予防策として「食卓から健康を見直す」という考え方がますます注目されています。一方で、キリングroupが提供する商品の中には、アルコールや糖分、脂肪分を含んでいるものがあり、摂取する量や方法を誤ると生活習慣病をはじめとする健康リスクにつながります。そこで、キリングroupではグループの持つ技術やノウハウをグローバルで共有しながら、商品開発や啓発活動など、生活習慣病のリスク低減に貢献する取り組みをCSVの実践を通じて推進していきます。同時に、創業以来培ってきた発酵・バイオの技術力を基盤とした独自の技術を活用し、生活習慣病にとどまらない健康課題および多様化する健康ニーズに対応した商品開発にも注力していきます。

また、健康を阻害する要因となり得るアルコール関連問題に対しても、「健康」というテーマの中でグローバルな視点を持ってグループ全体で継続的に取り組んでいきます。

生活習慣病予防に向けた取り組み

キリングループでは技術を活用し、生活習慣病予防に向けてさまざまな商品を展開しています。

一部商品紹介

● 国内総合飲料

「キリンフリー」



世界初アルコール
0.00%の
ビールテイスト飲料

「キリン ノンアルコールチューハイ ゼロハイ 氷零」



ノンアルコール、
カロリーゼロ、
糖質ゼロのチューハイ

「トロピカーナ 皮ごと搾り ブルーベリーブレンド」



果実の「実」と
「皮」に含まれる
果実由来の
ポリフェノールを
摂取できるジュース

「キリン 午後の紅茶 おいしい無糖」



食事に合う
無糖の紅茶飲料

「キリン メッツコーラ」



食事の際に
脂肪の吸収を抑える
特定保健用食品

● 国内食品

「小岩井 生乳(なまにゅう)100%ヨーグルト」



脂質をカットし
おなかの調子を整えるなど、
新たなニーズに応えながら
健康をサポートする
特定保健用食品

● 海外飲料

「Kirin Fibz」



食事の際に脂肪の吸収を
抑える「キリン メッツコーラ」の
技術を活用した飲料
(ブラジル)

医薬分野での取り組み

協和発酵キリンでは、「腎」「がん」「免疫・アレルギー」「中枢神経」を重点カテゴリーとして定め、新たな医療価値の創造に取り組んでいます。このうち「腎カテゴリー」において、2013年7月、糖尿病の治療薬として2型糖尿病治療剤「オングリザ®錠 2.5mg、5mg」を

発売しました。糖尿病は、慢性腎疾患の発症や進行に関わる代表的な生活習慣病の一つです。協和発酵キリンは、患者さんや医療関係者の皆さまに2型糖尿病治療における新たな選択肢を提供し、病気と闘う人々のニーズに応えていきます。

独自技術を活用した健康機能性商品の展開

キリン プラス-アイ

キリングroupでは、創業以来培ってきた発酵・バイオの技術力を基盤に、多様化する健康課題とニーズに応える研究開発および商品開発に取り組んでいます。

2008年には健康分野におけるグループ各社の強みを相乗的に加速させるために「キリンの健康プロジェクト」を発足させ、「おいしい」と「楽しい」に「健康」をプラスした商品を「キリン プラス-アイ」シリーズとして発売してきました。協和発酵バイオが研究開発し、製造を担うアミノ酸「オルニチン」を機能性素材として配合した商品や、毎日忙しく休めない方へ、まもるチカラの乳酸菌を配合した商品など、徐々に商品の幅を広げています。

今後もキリングroupの持つ研究成果や技術を活かして、普段の食生活では摂りづらい食材や健康素材を、毎日無理なく手軽にプラスできる商品提案を行っていきます。

キリンの健康プロジェクト

KIRIN Plus-i

毎日の「おいしい」に、「健康」をプラス。



アルコール関連問題への対応

キリングroupでは、経営理念の一つである『食と健康』の新たなよこびを広げていくことを阻害する要因としてアルコール関連問題を位置付け、アルコール関連問題に真摯かつ適切に対応することが、アルコール飲料を製造・販売する企業としての社会的責任と考えています。この問題に対応するため、基本方針や行動指針の策定をはじめとして、適正な飲酒に関する正しい知識の普及啓発や、広告・宣伝活動のより厳しい自主基準の設定と遵守に取り組んでいます。

2013年12月には「アルコール健康障害対策基本法」が制定されたため、これまで以上に自主基準の運用徹底および強化を推進していきます。さらに、従業員研修、国内外における業界全体の取り組みへの積極的参画など、地域社会や国際社会とともに、問題飲酒の撲滅と予防に向けて総合的な対策に努めています。

アルコール関連問題に対する基本方針

「キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、『食と健康』の新たなよこびを広げていきます」というグループ経営理念のもと、不適切な飲酒による様々な問題を防止し、適正飲酒を啓発する活動を推進していきます

実現に向けた体制

2010年5月、WHO（世界保健機関）の「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」採択を受けて、キリングroupでは、2011年2月からアルコール関連問題に対する専門部署であるARP室を設置しました。これにより、飲酒に関わるさまざまな社会問題と健康リスクに対する取り組みをより強化し、アルコールの有害な使用の低減に向けて継続的に貢献していく体制を再構築しました。また、キリングroupでは各国の酒類業界・政府と連携し、国や地域の事情を考慮した施策づくりに取り組んでいます。2005年には国際業界団体であるGAP-G^{*1}に、2013年にはICAP^{*2}に加盟し、アルコール関連問題の低減活動をグローバルに推進しています。

^{*1} GAP-G (Global Alcohol Producers Group) : 2005年に、世界の酒類メーカーがWHOとの対話の場を創出するために設立した団体。世界の酒類メーカー、酒造組合など12社が加盟しています。

^{*2} ICAP (International Center for Alcohol Policies : アルコール政策国際センター) : 1995年に設立された国際的なアルコール関連問題のNPO。世界の主要酒類メーカー15社が加盟しています。



飲酒運転の撲滅に向けた「ハンドルキーパー運動」

環境

目指していること

キリングroupは、「人と自然を見つめるものづくりで、『食と健康』の新たなよるこびを広げていきます。」というグループ経営理念のもとに、地球の豊かなめぐみと環境を、持続可能なかたちで将来につなぎ、お客様と社会全体に価値を提供し続けたいと考えています。目指すのは、キリングroupのバリューチェーンから発生する環境負荷を地球が賄うことのできる能力とバランスさせる「資源循環100%社会の実現」です。そのために、2050年までに4つのテーマで持続性を目指し、広くステークホルダーとコミュニケーションを取りながら役割を分担して活動を展開していきます。



キリングroup長期環境ビジョン

自然のめぐみを原料とし、自然の力と知恵を利用しているキリングgroupにとって、自然との共生、その恩恵の持続的な利用は経営の最重要課題の一つです。

キリングgroupは2013年、今までの活動を発展的に統合した

「キリングgroup長期環境ビジョン」を制定しました。この新たな環境戦略をグループ全体に展開し、環境と社会の持続性と、企業価値の向上につなげることを目指します。

キリングgroupの長期環境ビジョン

豊かな地球のめぐみを将来にわたって享受し引き継ぎたいという思いを、バリューチェーンに係わるすべての人々とともにつないでいきます。

目指すべき方向性

資源循環 100%社会の実現

水資源 地域とともに、永続的に水源を使用します。
「水源の森活動」を全国で展開

生物資源 生産地に寄り添い、持続可能な生物資源を使用します。
スリランカ紅茶農園の持続可能な農園認証取得を支援

バリューチェーン全体を通じた取り組み

容器包装 使う人を思い、持続可能な容器を使用します。
ペットボトルをはじめとする容器を容器に戻す取り組みを推進

地球温暖化 つないでくれる人たちとともに、バリューチェーンのCO₂排出量を地球の吸収可能量に抑えます。
国内の製造・物流・オフィスからのCO₂排出量55%削減(2013年実績、1990年比)

取り組みの姿勢 NGOや企業コンソーシアムとも連携し、広くステークホルダーとコミュニケーションを取りながら、役割をシェアして活動を展開します。

水資源

キリングgroupは、生産拠点のある地域の水資源に関するリスクを評価し、地域の実情に合わせた高度な節水活動を推進しています。2013年は、製造量あたりの用水使用量を前年に比べキンビールで4.9%、ライオンで5.5%、ブラジルキンで2%削減しました。

2013年度実績

	水の総使用量削減率	用水原単位	
		実績	削減率
キンビール	-7.0%	4.9m ³ /kL	-4.9%
ライオン	-18.3%	2.56m ³ /kL	-5.5%
ブラジルキン	-3.8%	3.54m ³ /kL	-2.0%

※ 削減率はいずれも対前年比

生物資源

生物資源の持続可能な利用

良質な原料や豊かな水は、それを育む生産地の生態系が守られて初めて利用できます。キリングroupは、生産地やそこで働く人々とより良いパートナーシップを築き、生態系の保全に配慮した生物資源の利用を進めるとともに、生産地の持続可能性を高める活動を行っています。

2010年には「キリングroup生物多様性保全宣言」を、2013年に「キリングgroup持続可能な生物資源調達ガイドライン」と日本国内における「行動計画」を策定し、持続可能な調達やスリランカの紅茶農園を支援するなどの取り組みに努めています。



スリランカの紅茶農園支援

「キリン 午後の紅茶」にはスリランカ産の紅茶葉が使われています。調査の結果、調達先の紅茶農園の約4割が生態系保全に寄与する各種認証を得ているものの、認証取得できるのは比較的資金に余裕のある農園に限られ、意欲はあっても対応できない農園が多くある実態が把握できました*。そこでレインフォレスト・アライアンスと協働し、スリランカの紅茶農園の持続性向上に向けた認証取得支援を2013年に開始しました。これは、意欲ある農園に対し、持続可能な農園認証制度である「レインフォレスト・アライアンス認証」取得に向けたトレーニング費用を、キリングgroupがサポートするものです。

対象となる紅茶農園のうち、2013年は15農園がトレーニングを完了しました。2014年には30以上の農園がトレーニングを受け、2014年末までにディンブラ地区、ヌワラエリア地区では対象農園の半数以上がトレーニングを完了する予定です。

* キリングgroupの調査により

容器包装

容器包装の循環・再資源化に向けて

キリングgroupは長年にわたり、容器包装の環境適合設計を研究し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の社会的な促進にも取り組んできました。技術の革新をふまえ、近年はペットボトルを再びペットボトルに戻す「ボトルtoボトル」に取り組み、国内の資源循環の促進に努めています。

ペットボトルのリサイクルの取り組み

キリンビバレッジは、ペットボトルの素材に再生ペット素材を用いる「ボトルtoボトル」のリサイクルに取り組んでいます。2012年に再生

ペット素材を10%、植物由来ペット素材を27%使用したペットボトルを一部商品に導入し、2013年秋からは再生ペット素材の使用率を50%に高めてきました。

2014年2月からは、「キリン 午後の紅茶 おいしい無糖」のパッケージに、再生ペット素材100%からつくる環境配慮型リサイクルペットボトル「R100PET ボトル」を導入しました。「R100PET ボトル」は、不純物を除去した再生ペット素材100%でメカニカルリサイクルされており、一般的な石油由来ペット素材に比べて石油資源を90%、CO₂排出量を60%削減できます。

地球温暖化

キリングgroupは2009年に「低炭素企業グループ・アクションプラン」を策定し、「国内の製造・物流・オフィスからのCO₂排出量を2015年までに1990年比で35%削減」という目標を、2013年に前倒しで達成（55%削減）しています。

2013年度実績

	CO ₂ 排出量	
	削減量	削減率
キリンビール	1,899t -CO ₂	-1.1%
ライオン	40,768t -CO ₂ e	-11.6%
ブラジルキリン	8,512t -CO ₂ e	-5.7%

* 削減率はいずれも対前年比

食の安全・安心



目指していること

キリングroupは、世界的な「食の安全」への意識の高まりに確かな品質で応えるべく、食品業界で最高レベルの品質保証を目指しています。また、確かな品質とともに、お客様・社会の期待に応えられる誠実なコミュニケーションを意識し、常に安心していただける商品・サービスをお届けしたいと考えています。

キリングroup各社では、グループ品質方針に則りバリューチェーンすべてのプロセスにおいて、一貫した品質保証体制を整えてきました。またグローバルに広がる全グループ会社を対象とした「キリングroup グローバル品質マネジメントの原則」を制定し、グループ全体の品質マネジメントのさらなる強化を目指していきます。



キリングroupの品質

品質マネジメント

キリングroupの品質保証は、キリンビール創立以来の理念である「お客様本位・品質本位」に基づき、安全性の確保とお客様の満足を何よりも優先しています。この考え方を、「キリングroup 品質方針」および「活動原則」に規定・展開し、日々の活動に反映させて取り組みを進めています。また、グループ全体においても理念に基づき、品質リスクを低減するため、「キリングroup グローバル品質マネジメントの原則」を制定し、その適用を順次進めています。

これらの原則は、原材料調達から開発、製造、物流、販売までのバリューチェーン全体において、キリングgroupとして大切にしている品質マネジメントのエッセンスです。その考え方がグループ各社の品質マネジメントシステムに反映され、確かな品質の商品・サービスへとつながっています。

品質保証の推進

品質保証機能の強化を図るため、キリンホールディングスにグループ品質担当を設置し、グループの品質マネジメントを統括させ、商品

の開発からお客様にお届けするまでのすべてのプロセスにおいて、一貫した品質保証体制を整えています。

主要グループ会社の品質保証部門長は、グループ品質保証会議・意見交換会の開催や、国内・海外の食品安全に関する情報収集を行い、潜在的なリスク要因の抽出・低減活動を行うなど、品質保証に関する重要課題への取り組みを推進しています。各グループ会社は原材料から製品の出荷までの各段階における履歴情報や検査結果を記録・保管し、特定の原料・商品を遡及・追跡できるしくみを構築しています。



お客様のさらなる安全・安心のために

キリングgroupでは、お客様に信頼され喜んでいただける安全・安心な商品やサービスを提供するために、お客様とのコミュニケーションを大切にしています。

2013年からキリンビール・キリンビバレッジ・メルシャンのお客様

対応部門を統合し、お客様からいただいたご意見・ご要望はすべてタイムリーに各事業会社、関係部門に共有し、商品やサービスの改善に役立てています。

目指していること

キリングループの成長を支えるもっとも大切な経営資源は人材です。キリングループでは、従業員と会社はイコール・パートナーであるという考えのもと、人事の基本理念として「人間性の尊重」を掲げ、従業員に対して会社から約束すること、会社として期待する従業員像を明確にしています。

「キリン・グループ・ビジョン2021 (KV2021)」では、グローバルな事業フィールドでキリングループの事業に関わる人材が、お互いを受け入れ、強みに変えていく組織風土・場づくりに取り組んでいます。また、人権については、キリングループの事業に関わるすべてのステークホルダーの人権を尊重する企業経営を目指しています。



人権の尊重

人権尊重のための取り組み

キリングループは従業員にとどまらず、バリューチェーン全体で人権の尊重を徹底していくことを目指しています。

国連グローバル・コンパクトの支持表明を2005年に行い、原則の内容を「キリングループ コンプライアンス・ガイドライン」および「キリングループ・サプライヤー CSRガイドライン」に反映し、遵守・

徹底に努めています。

人権尊重の考え方を徹底するため、毎年、全従業員に人権・コンプライアンス研修、グループ会社の社長・役員には経営層向けの人権研修を実施しています。海外においては、リスク管理システムのしくみを通じて運用を行っています。

人材育成

人材育成はグループ成長の基盤

組織能力の強化には、価値創造の源泉である「人材力」を高めることが重要であるという認識のもと、人事の基本理念である「人間性の尊重」に基づき、人材育成に力を入れてきました。

キリングループ各社でそれぞれに進めていた人材育成を、『ひとつのKIRIN』という理念のもと、グループ合同で進めることにより、さらなる組織能力の向上を果たし、国内総合飲料事業をはじめとした

グループ全体の成長を実現していきます。

人材育成基本方針

1. 基本的なビジネススキル習得を推進し、全体レベルの向上を図る。
2. グループ経営を担う人材を発掘、育成する。
3. リーダーとメンバーの関係を強固にし、組織力の強化を図る。
4. 自らが主体的に学習、成長する機会・環境を整備する。

多様性の尊重

多様性を活かす企業風土を目指して

キリングループは多様性の推進を経営戦略の一つとしています。2013年には多様性推進室を設立し、性別、障害の有無、年齢、国籍に関係なく、成長意欲を持つ多様な従業員が働きやすい環境整備と働きがいのある組織風土の実現や、新たな価値創造に向けて取り組んでいます。

キリングループでの女性活躍推進は2007年より「キリン・ウィメンズ

ネットワーク (KWN)」が中心となり取り組みを継続しています。さまざまな制度の制定や、計画的な採用、育成、配置により女性の職域拡大や登用も進み、2014年春にはキリングループ国内事業で初めて*女性の執行役員が誕生しています。また、「KWN2021」という女性活躍の長期計画を策定、女性リーダーの目標数を定め、計画的に女性社員が育成され活躍できる組織風土の実現を目指しています。
※社外役員を除く

目指していること

キリングroupでは、「キリン・グループ・ビジョン2021 (KV2021)」の実現に向けたCSVの実践において、コンプライアンス、リスクマネジメントおよびビジネスパートナーとの公平・公正な関係の構築を基盤としています。コンプライアンスについてはグループ全体で共有する「キリングroup コンプライアンス・ガイドライン」をベースに、リスクマネジメントの一環として取り組みを推進しています。また、キリングroupの事業を支えるすべてのビジネスパートナーとオープンでフェアな取引を行うことを大前提に、長期的な信頼関係を築きながら相互の、そして社会のサステナビリティの実現を目指していきます。



リスクマネジメント・コンプライアンス

リスクマネジメント

キリングgroupでは、リスクを未然に防止することが重要であると考え、海外の連結子会社を含めたグループ全体でリスクマネジメントを推進しています。具体的には、キリングgroup全体の重要リスクを設定してリスク対応を図るとともに、グループ会社の重要なリスクを各社の事業計画に反映することで、リスクマネジメントの確実な実行に努めています。

クライシス管理については、特に2011年に発生した東日本大震災や現在想定されている大規模な震災などを踏まえ、調達リスクの低減に向けた対策を図るなど、業務継続計画(BCP)の拡充に努めています。

コンプライアンス

キリングgroupのコンプライアンス・ガイドラインは、法令の遵守に加え、社会から倫理的に求められる「何をするべきか」「何をしてはならないか」といった具体的な行動を定め、社会的要請の変化に応じて随時見直しを行っています。コンプライアンスの徹底を図るべく、コンプライアンス・ガイドラインの啓発用ツールの配布やコンプライアンス研修の実施、またコンプライアンスに関する相談窓口を設置するなど、グループ全体で取り組みを推進しています。

CSR調達

持続可能な社会を実現するためには、バリューチェーン全体を通じてCSVを推進していくことが不可欠です。ビジネスパートナーとの双方向コミュニケーションを深めるしくみづくりの推進により、公正・公平な関係を構築すると同時に、ともに社会的責任を果たすための取り組みについて共有し、理解を深めています。

CSR調達については、「キリングgroup・サプライヤーCSRガイドライン」を策定し推進しています。新規サプライヤーに対しては、「サプライヤーCSR確認書」の提出と、行動規範の遵守を求めています。お取引開始後も、年1回、各サプライヤーのCSRに関する取り組み状況を確認し、評価、フィードバックを行っています。

また、公正なお取引を行うために、サプライヤーからキリングgroupへのフィードバックとなるサプライヤーアンケート調査を実施し、

いただいたご意見を確実に調達活動に活かしています。

このような一連の取り組みを通じて、PDCAサイクルを回しながら継続的にサプライヤーと連携し、CSR調達を推進していきます。

キリングgroup調達基本方針

5つの方針

- ① 品質本位
- ② オープンでフェアなお取引
- ③ コンプライアンスの遵守
- ④ 環境への配慮
- ⑤ サプライヤーとの相互の信頼と繁栄

サプライヤーCSRガイドライン

遵守大項目

- ① 体制・コンプライアンス・リスクマネジメント
- ② 人間性の尊重
- ③ 環境への配慮
- ④ 安全・安心
- ⑤ アルコール関連問題への取り組み
- ⑥ 社会貢献

国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクト(以下、GC)とは、各企業が責任あるリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、世界の持続可能な成長を実現するための取り組みです。GCは、人権・労働基準・環境・腐敗防止の分野で10の原則を示しており、企業に対してそれらの原則を支持し、遵守するよう求めています。

キリングroupは、2005年9月にGCへの参加を表明しており、従業員との関係や調達・開発・製造・販売などの企業活動の中で、GCの原則実現につながる具体的な取り組みを進めています。

また、GCのジャパンネットワーク内に組織されている分科会活動には各テーマの担当者が参加し、他社との情報共有・課題解決に向けた討議などを行っています。



私たちキリングroupは国連グローバル・コンパクトに署名して、グローバルな企業活動の中で社会的責任を果たすことを表明し実行しています。グローバル・コンパクトが掲げる「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」からなる10原則を基に、「環境」「人権・労働」「公正な事業慣行」を重点テーマとして設定し、これに食品を扱う企業として必須であり社会からの関心も高い「食の安全・安心」を加えた4つを、キリングgroupが社会的責任を果たす「キリングgroupの約束」として位置付けています。ビジネスの面では各国のグループ会社に地域の事情に合わせた自立的な展開を求めています。しかし、これら必須のテーマは全世界共通のものとして取り組んでいきます。



キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長
三宅 占二

社外からの主な表彰例

R&D関連

受賞年	受賞内容
2013年	日本農芸化学会2013年度大会トピックス賞 ホップに含まれる成分「β-ユーデスモール」飲用による自律神経調節作用を確認 第48回日仏獣医学会 学術奨励賞 演題: Oxidative neurotoxicity caused by microglial NADPH oxidase in encephalomyocarditis virus infection 学会: The 48th Societe Franco-Japonaise des Sciences Veterinaires (第48回日仏獣医学会) 発表者: Yasuhisa Ano, Akikazu Sakudo, Hiroyuki Nakayama, Takashi Onodera アジアスター 2013 コンテスト アジアスター賞/ワールドスター 2013 コンテスト ワールドスター賞 グランドキリン
2014年	日本農芸化学会2014年度大会トピックス賞 細胞内温度計測用の新規蛍光性温度センサーの開発

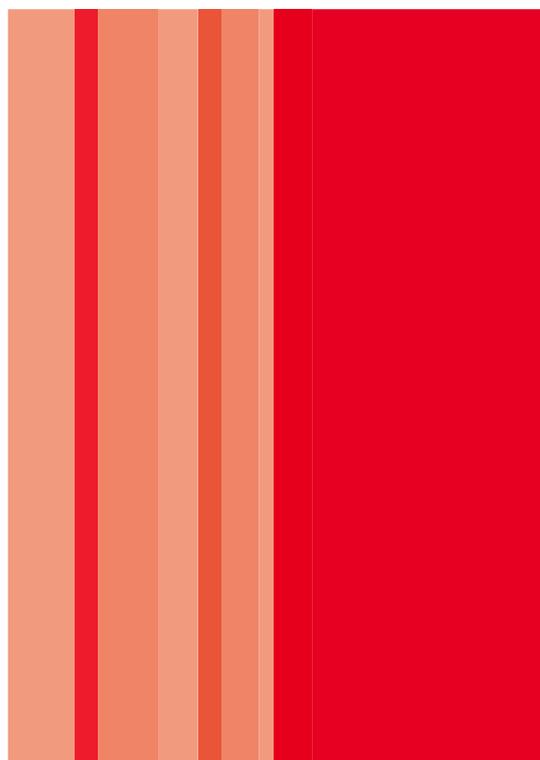
サステナビリティ関連

受賞年	受賞内容
2013年	Dow Jones Sustainability Index 2013に選定 FTSE4Good Index に選定

環境関連

受賞年	受賞内容
2013年	Waldemar Junqueira Ferreira Filho賞(ミネラルウォーター産業ブラジル協会) ブラジルキリン 緑綬褒章(地域における永年の緑化・美化活動) キリンビール 仙台工場 平成25年度省エネ大賞/資源エネルギー庁長官賞(省エネルギーセンター) キリン 平成25年度横浜環境行動賞 3R活動優良事業所(横浜市) キリンビール 横浜工場 地球温暖化防止活動環境大臣賞/環境教育活動部門(環境省) キリンビール 横浜工場 第17回環境コミュニケーション大賞/地球温暖化対策報告大賞(環境大臣賞)(環境省・地球・人間環境フォーラム) 環境報告書「キリングroup環境報告書2013」

KIRIN



お問い合わせ先 キリンホールディングス株式会社 お客様担当まで

〒164-0001 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス

TEL : 0120-766-560

<http://www.kirinholdings.co.jp/csv/>

